

	各社の考え方
□ 算定を行う背景・目的	<ul style="list-style-type: none"><li>● 企業の社会的責任を果たす上で、サプライチェーン排出量全体の算定・報告が求められる中、当社においても委託輸送や様々な社内活動によるCO2排出量を算定することで、具体的な削減の検討やステークホルダーへの情報開示を目的とした。</li></ul>
□ 算定結果の活用方法	<ul style="list-style-type: none"><li>● サプライチェーン排出量全体のバランスを把握し、ポテンシャルが大きいところに対し、効果的な対策を実施する為に活用する。</li><li>● ステークホルダーへ情報を開示する為、CSRレポートやホームページに数値を公表する。</li></ul>
□ 算定のメリット	<ul style="list-style-type: none"><li>● サプライチェーンを構成する協力会社に情報を提供することで、理解や連携を促進し、より効果的に削減を推進することが可能になる。</li><li>● 情報を開示することで、ステークホルダーへの説明責任の向上へとつながる。</li></ul>
□ 社内の算定体制	<ul style="list-style-type: none"><li>● 本社の各部署でデータの集計・管理を行い、CSR推進部環境課が取り纏めて算定する。</li></ul>

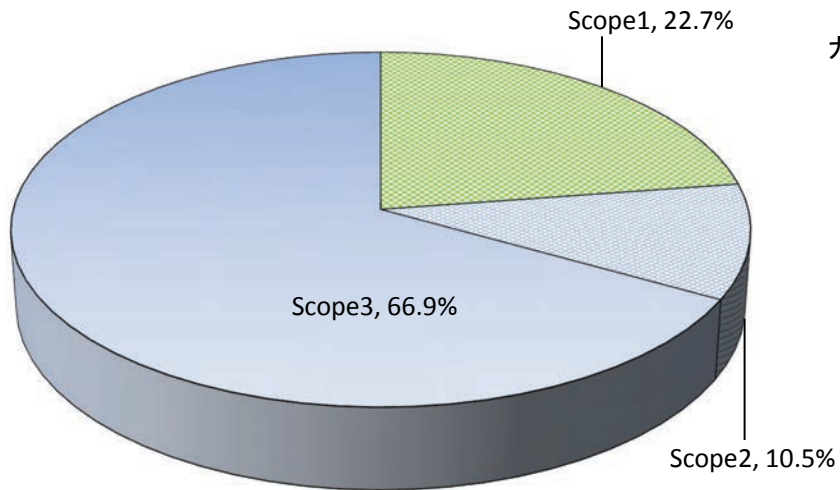
	各社の考え方
□ サプライチェーン排出量の削減に向けて	<ul style="list-style-type: none"><li>● 算定結果からカテゴリー1・委託輸送分の全体に占める割合が大きい為、今後更なるモーダルシフトの推進や、輸送の効率化により、サプライチェーン全体での削減が可能となる。</li></ul>
□ サプライチェーン排出量算定の課題	<ul style="list-style-type: none"><li>● カテゴリー1の占める割合が大きい為、他のカテゴリーでの削減効果がわかりにくい。</li><li>● 協力会社が低公害車を導入したとしても、現時点では正確なデータを入手できる環境がない為、数値に反映することができない。</li></ul>
□ その他(任意)	<ul style="list-style-type: none"><li>● 算定の妥当性・透明性を担保するため、第三者検証を取得している。</li></ul>

カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ1「購入した製品・サービス」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自社で購入した製品・サービスを対象</li> <li>● 委託輸送分(幹線輸送・集配委託)を対象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 購入金額当たりの原単位</li> <li>● エネルギー使用量や委託金額の原単位</li> </ul>
カテゴリ2「資本財」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 固定資産台帳で計上した資産を対象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 金額当たりの原単位</li> </ul>
カテゴリ3「Scope1,2に含まれない燃料及びエネルギー活動」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 燃料・電気使用量の上流部分を対象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各エネルギー使用量当たりの原単位</li> </ul>
カテゴリ4「輸送、配送(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 総排出量の1%未満であり、Scope1と重複することから除外する</li> </ul>	
カテゴリ5「事業から出る廃棄物」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物種類別排出量を対象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 廃棄物種類別の原単位</li> </ul>
カテゴリ6「出張」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 出張旅費精算額を対象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 交通手段別の原単位</li> </ul>
カテゴリ7「雇用者の通勤」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 勤務地の都市区分と勤務日数・在籍人数を対象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 勤務地の都市区分別の原単位</li> </ul>
カテゴリ8「リース資産(上流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当活動なし</li> </ul>	
カテゴリ9「輸送、配送(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当活動なし</li> </ul>	
カテゴリ10「販売した製品の加工」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当活動なし</li> </ul>	
カテゴリ11「販売した製品の使用」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当活動なし</li> </ul>	

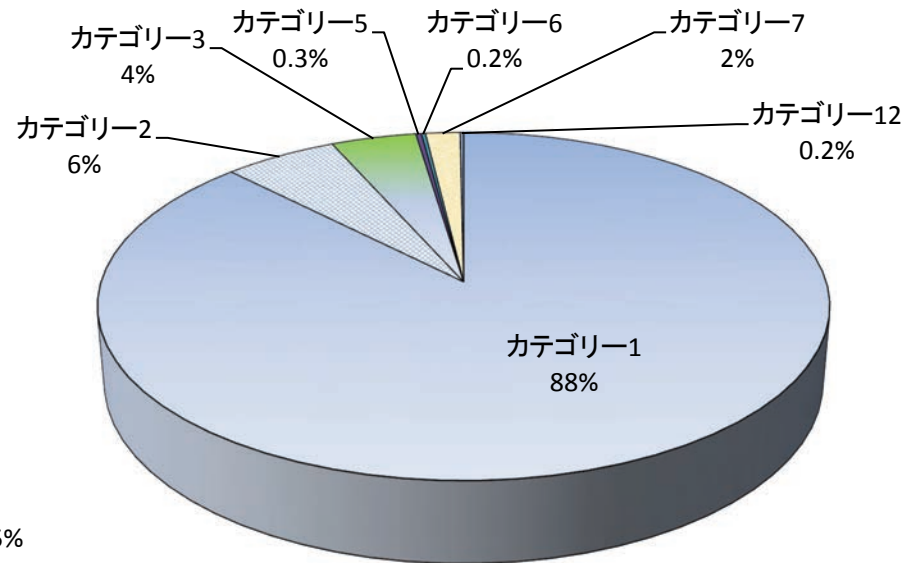
カテゴリ	算定方法	
	活動量	原単位
カテゴリ12「販売した製品の廃棄」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自社オリジナル梱包資材の取扱量を対象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 種類別廃棄物処理(焼却※)の原単位</li> </ul> ※処理方法が不明な為、保守的に算定する上で係数が多い方を選択
カテゴリ13「リース資産(下流)」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当活動なし</li> </ul>	
カテゴリ14「フランチャイズ」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 該当活動なし</li> </ul>	
カテゴリ15「投資」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 当社は投資事業者及び金融サービスを提供する事業者のいずれでもなく、基本ガイドラインが定める適用事業者ではないことから除外</li> </ul>	
「その他」	<ul style="list-style-type: none"> <li>● オプションカテゴリのため除外</li> </ul>	
※原単位は排出原単位データベースver2.1及びカーボンフットプリントコミュニケーションプログラム基本データベースver1.01を参照		

## 算定結果

## ● サプライチェーン排出量(2014年度)



サプライチェーン全体の排出量



Scope3 内訳